

一般不妊治療と比較し ART（生殖補助医療：体外受精、顕微授精）では妊娠高血圧症候群（PIH）は増えるのか

ART では妊娠高血圧症候群（PIH）のリスクが高くなるという報告があります。PIH は母体や子に影響を及ぼすため、妊娠中は特に注意が必要な合併症です。今回の学会では、当クリニックにおける PIH の発症率と ART の関連性について報告しました。

ART では一般不妊治療（タイミング法、人工授精法）で妊娠した場合と比べて、PIH の発症率（一般不妊治療：2.5% ART：8.5%）は高くなることが分かりました。一般的に発症リスクが低いと思われる年齢 40 歳未満、普通体重 BMI の人であっても ART では一般不妊治療と比べて PIH の発症率は高い結果でした。しかし、40 歳以上では発症のリスクは変わらない事も分かりました。

母子ともに健康に出産を迎えるためには、妊娠中の合併症には十分注意をし、しっかりと妊婦健診を受ける事が大事です。日本の周産期医療は世界のトップレベルですし、ART で妊娠したからと言ってむやみに怖がる必要はありませんが、今回のような報告もあるという事も念頭において自分たちでも妊娠中の細かな変化にしっかり気付くこと、適切な食事や適度な運動を心掛けるなど少しでも予防できる努力をしましょう。

※妊娠高血圧症候群（PIH）とは？

妊娠 20 週以降、分娩 12 週までの間に高血圧がみられる状態をさします。重症化すると母体では血圧上昇、蛋白尿に加えて、脳出血、肝臓・腎臓の機能障害などを引き起こすことがあります。胎児の発育に影響が出る事もあります。

もともと、糖尿病、高血圧、腎臓に病気を持っている方や、肥満、年齢が高い（40 歳以上）方がなりやすいとされています。